

競 技 注 意 事 項

本大会は、2025年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

1 練習について

- (1) 練習は、各練習会場の日程、諸注意を確認して実施すること。
- (2) 練習会場、競技役員の指示により安全に留意して行うこと。
- (3) 練習時間、練習場所については、天候の状況によって変更や制限をする場合がある。
- (4) メイン競技場、補助競技場トラックでは逆走を禁止する。
- (5) 棒高跳の練習は、競技開始60分前から現地にて跳躍練習を行うことができる。ただし、他の競技に支障が出ないように、当該審判員の指示に従って行うこと。
- (6) 円盤投・ハンマー投の練習は、多目的広場で行うこと。練習の際は、当該審判員の指示に従って行うこと。
- (7) やり投の練習は、競技開始60分前から現地にて投てき練習を行うことができる。ただし、他の競技に支障が出ないように、当該審判員の指示に従って行うこと。

【練習会場】

★練習会場の縁石（1レーン内側）は勝手に外さないこと。跳躍や投てきの練習で、縁石を外す必要がある場合は、各練習会場にいる審判員に声をかけて、必ず審判員に外してもらうこと。

(1) メイン競技場

- ① トラック競技及び走幅跳、三段跳ピットの使用ができる。ただし競技の準備を優先する。
- ② バックストレートにおいて、400mH（8・9レーン）の練習をすることができる。
- ③ 練習時間は、開場から競技開始30分前までとする。

(2) 補助競技場

- ① レーンの使用については以下の通りである。
 - ア 1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
 - イ 3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする（ブロックの使用不可）。
 - ウ ブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路5～11レーンのみとする。
また、曲走路からのスタート練習は第1コーナー付近からのみとする。
 - エ 多目的広場側直走路7・8レーンは女子100mH、10・11レーンは男子110mHとする。
 - オ 第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路の5レーンは女子400mH、6レーンは男子400mHとする。
- ② 個人の練習道具（メディシンボール、ミニハードル、ラダー等）を使用した練習は禁止する。
- ③ 倉庫内の用具（ハードル等）を勝手に出して使用しないこと。使用できる用具は、競技場に事前に用意されている用具に限る。
- ④ 投てき競技で、回転投法ではない砲丸投の投てき練習はトラック外側の砲丸投ピットで行うことができる。また、投てき物を持たない基本練習を行うことができる。

(3) 雨天練習場

- ① 雨天練習場内でのピストルの使用は禁止する。
- ② 雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲート側からの入退場は禁止する。
- ③ シート・マット等を敷いて独占的な使用をすることを禁止する。
- ④ ウォーキング・ジョギング等のウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよいが、それ以外の練習は、補助競技場等、他の練習会場で行うこと。

- ⑤ ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
- ⑥ ハードル・ミニハードル・ラダー等、個人の練習道具を持ち込んではいけない。

2 スパイクシューズ等の制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。

3 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは指定された数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技（走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳）に出場する選手はどちらか一方でもよい。
- (2) トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの左右横やや後方につけること。
- (3) 3000m以上のレースは別ナンバーカードを使用する。別ナンバーカードは招集所で配布する。

4 選手招集について

- (1) 選手招集場所は、第2ゲート付近とする。
- (2) 選手招集開始時刻・完了時刻は、競技時間を確認すること。
 - ※1：棒高跳は現地で招集を行う。
 - ※2：参加人数の多い種目については、段階的に招集を行う。競技時間に記載している招集開始時刻、招集完了時刻を確認すること。
- (3) 招集完了時刻に遅れた選手は棄権とみなす。
- (4) 2種目を同時に兼ねて出場する選手は、あらかじめ「多種目同時出場届」を競技者係に提出すること。
- (5) 欠場する場合はあらかじめ「欠場届」を競技者係へ提出すること。

5 競技について

- (1) 競技順は、プログラム記載の番号順とする。
- (2) その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- (3) トラック競技のスタートについては、下記のとおりとする。

「不正スタートについては、各レースでの不正スタートは1回目からすべて失格とする。」
- (4) TR7.1（不適切行為）が認められた場合は、審判長の判断により「イエローカード」が出されることがある。同じ競技会の中で2度の規則違反があった場合は失格となる。
- (5) スターターの合図は英語とする。（「On your marks」、「Set」）
- (6) 短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。
- (7) レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- (8) 競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- (9) トラック種目は予選・決勝を行う。
- (10) 男子5000mW・女子5000mWについては下記の時間を越えて最終周回には入らない。

男子5000mW：35分　／　女子5000mW：40分

- (11) フィールド種目（走高跳・棒高跳を除く）は、3回の試技終了後、上位8名を決定する。
上位8名はさらに3回の試技を行う。
- (12) 選手は、携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技エリア内に持ち込むことはできない。コーチエリア付近（エリア指定あり）で選手に手渡しして映像を見せることができる。選手が指定エリア外に機器等を持ち込むことはできない。なお、メインスタンドから撮影機器を手渡しすることは禁止とする。コーチエリアでのコミュニケーションが終了したら、速やかにコーチエリアから出ること。
- (13) フィールド競技における競技中の選手への水分の差し入れは、競技該当審判員を通じて選手に手渡すことができる。

6 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし、やりは検査において合格したものに限り使用が認められる。やりの検査は競技開始60分前に第1ゲート付近にて実施する。検査に合格したやりは、一括借り上げし、参加競技者で共有できるものとする。借り上げたやりは、その競技終了後、競技場第1ゲート付近で返却する。なお、借り上げたやりが破損しても責任を負わない。個人所有のポールの検査は最終点呼時に跳躍審判が行う。
- (2) 練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んではいない。

7 競技場への入退場について

種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。

第1ゲート：第1・2コーナー付近からスタートするトラック競技

第2ゲート：棒高跳・投てき競技

第3ゲート：走高跳

第4ゲート：第3・第4コーナー付近からスタートするトラック競技および走幅跳、三段跳

8 跳躍競技について

走高跳・棒高跳のバーの上げ方については、下記の通りである。

		練習			
走高跳	男子	145	155～180まで5cm刻み	180cm以降3cm刻み	195cm以降2cm刻み
	女子	120	125～145まで5cm刻み	145cm以降3cm刻み	166cm以降2cm刻み
棒高跳	男子	301	321～341まで20cm刻み	341cm以降10cm刻み	
	女子	201	221～241まで20cm刻み	241cm以降10cm刻み	

三段跳の踏切位置は、男子 11m00 女子 9m00 とする。

9 その他

- (1) 応急処置を要する健康上の問題が発生したときは、スタンド下の救護室に連絡すること。
- (2) 更衣室については、大会受付後方スタンド内通路に入って右側にあるので利用してもよい。
- (3) 記録は、記録の掲示については、競技終了後、大型映像で表示する。競技場メインスタンド下、正面玄関付近での記録掲示は行わない。なお、記録速報を愛媛陸協HPから確認できる。

